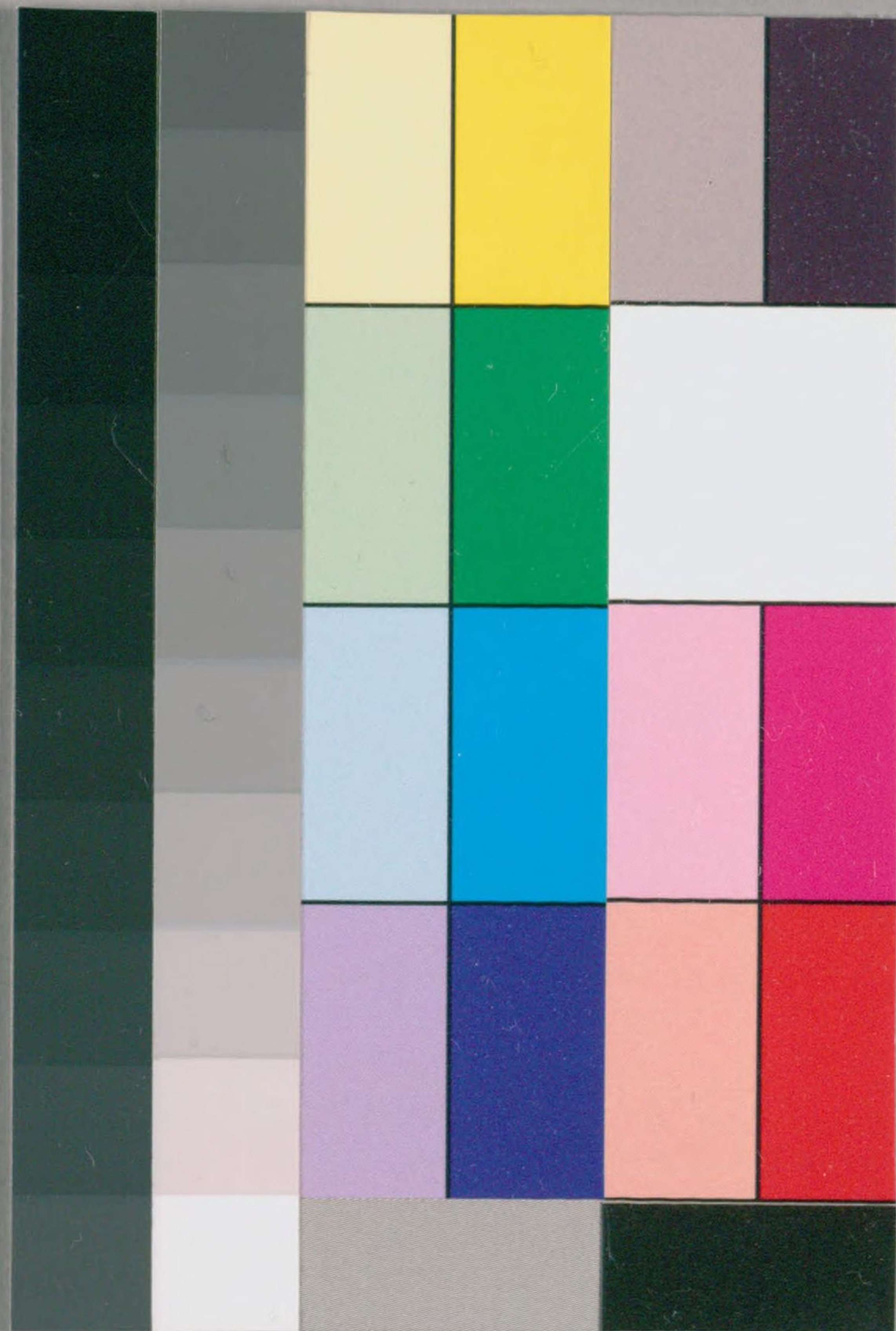


百人一首紅葉集 全

W373

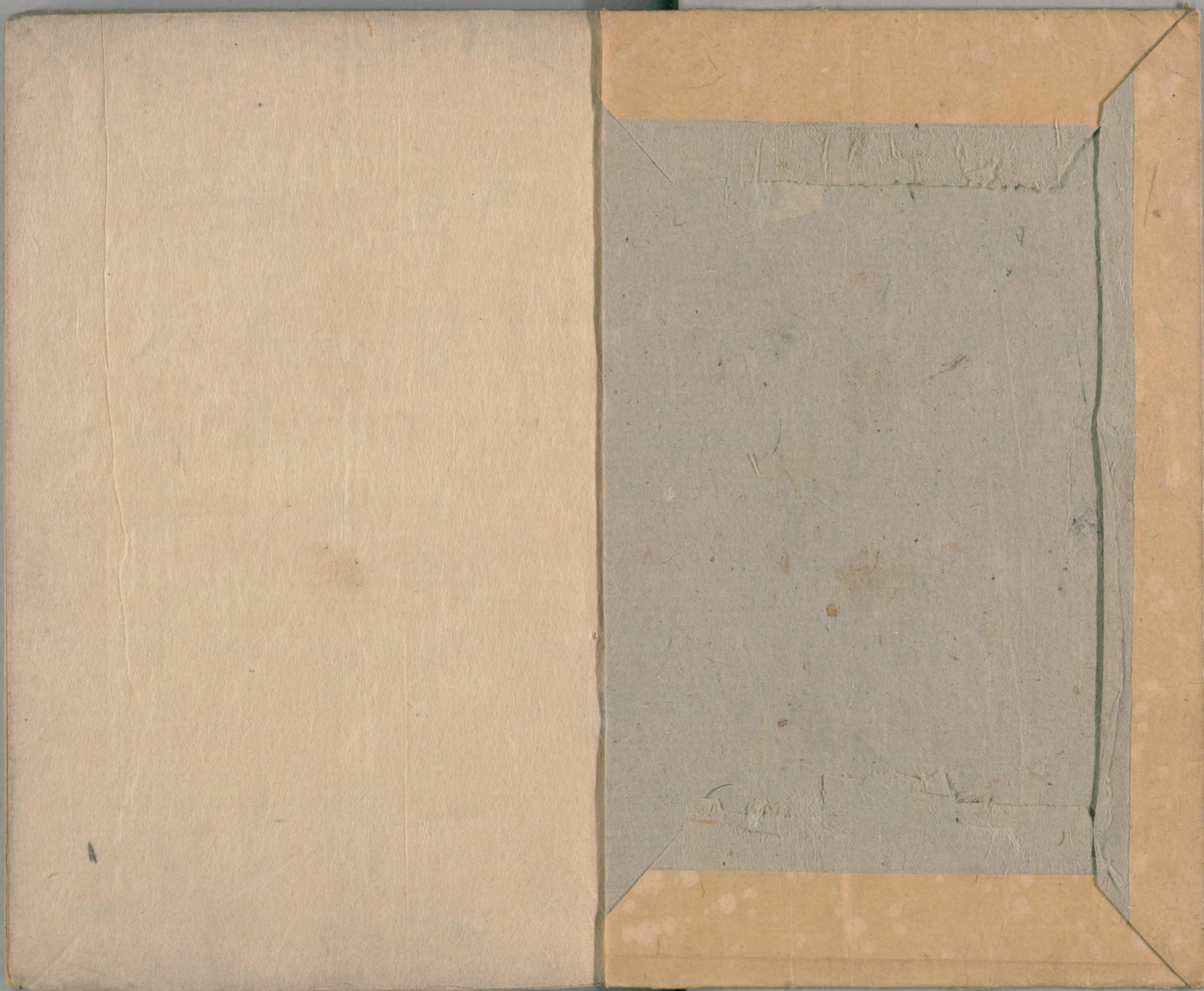
N29



国立国会図書館

タイトル『紅葉集』 請求記号 W373-N29

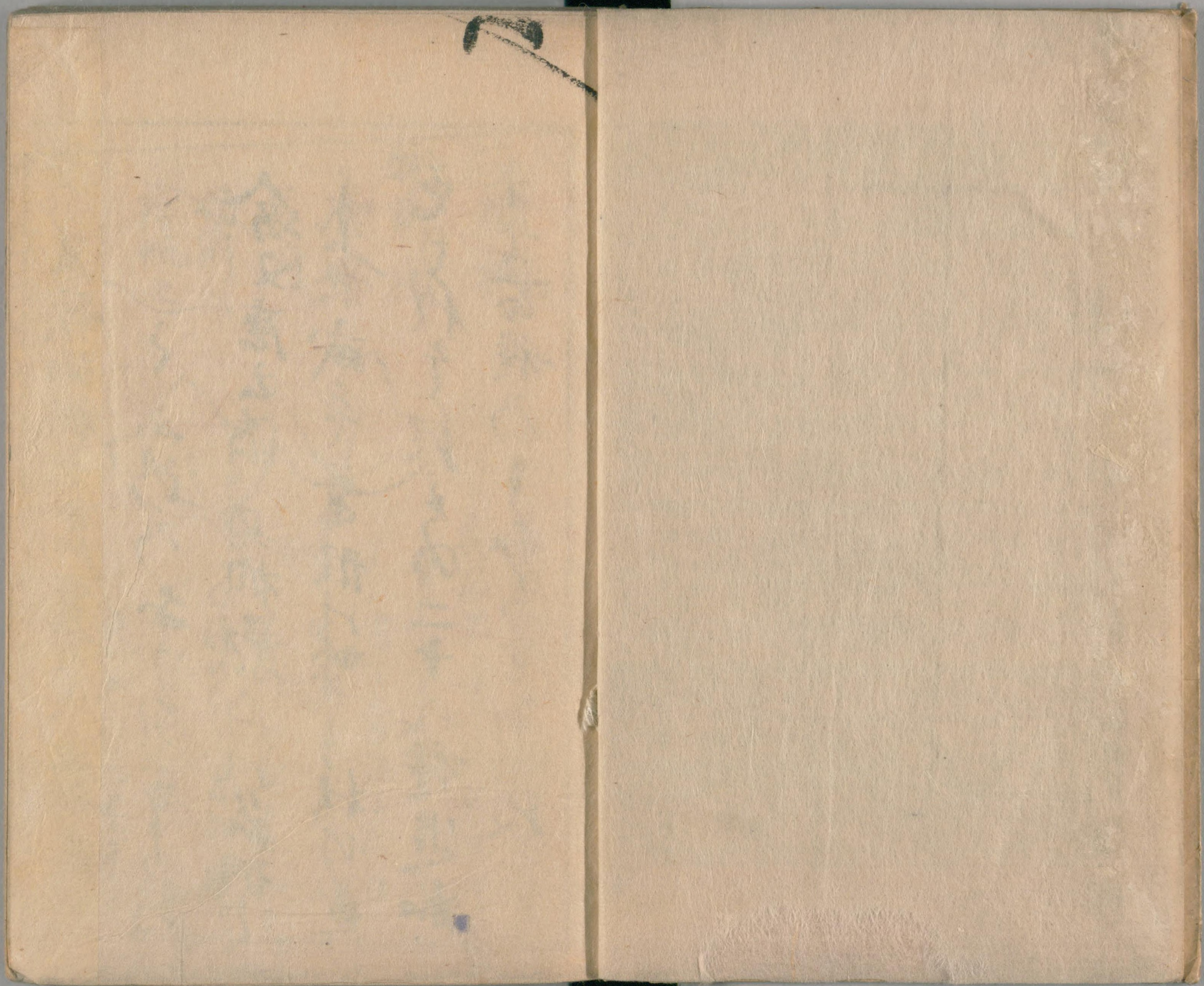
ガラス使用



国立国会図書館

タイトル『紅葉集』 請求記号 W373-N29

ガラス使用

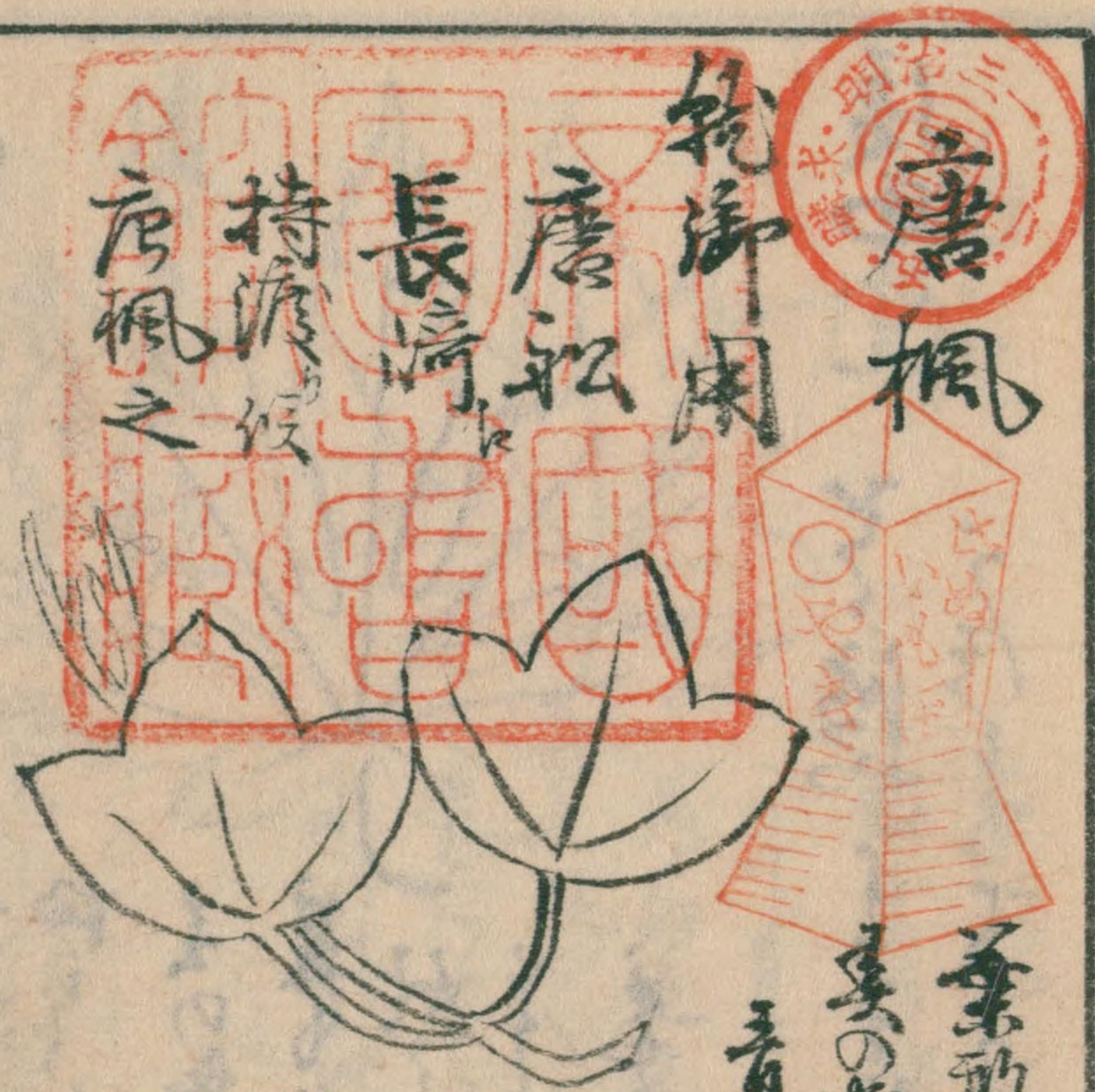


国立国会図書館

タイトル『紅葉集』 請求記号 W373-N29

ガラス使用

反歌仙楓を名付て八九の逸致
 くふみ乃おうりかきぬ
 今又唐土流りの楓あらはれ名楓と
 よふ或る葉形は秋の趣
 とをれき秋の二十八種進加
 して百種乃りから空ありぬ



葉形を記して三極兩對の書き
 美の書きすく多の唐楓
 香く書き表すくく書き
 有て書き流しわく書き
 書きの書きわく書き
 有て書き流しわく書き
 秋の紅葉本わく書き
 やつは流し書きの書き
 又の書き流しわく書き
 流し書きの書き



陣波



葉散るる有切なる
何れも大なるもの
その葉はゆるゆる
葉の葉ゆるゆる
枝は赤く花は白
ま—ま—ま—ま—
ま—ま—ま—ま—

後西院

後西院の紅葉
はなはだ美しい
と云ふべし

初花



葉散るる有切なる
何れも大なるもの
その葉はゆるゆる
葉の葉ゆるゆる
枝は赤く花は白
ま—ま—ま—ま—
ま—ま—ま—ま—

後宇高院

後宇高院の紅葉
はなはだ美しい
と云ふべし



美葉



葉散るに似て 厚く毛を以て

その葉は 葉の葉

に似て

花の葉を以て 葉の葉

葉の葉を以て 葉の葉

葉の葉を以て

葉の葉を以て

為

今よりいふと 葉の葉を以て 葉の葉を以て

唐織



葉散るに似て 切を以て

葉の葉を以て 葉の葉

葉の葉を以て 葉の葉

葉の葉を以て 葉の葉

葉の葉を以て 葉の葉

葉の葉を以て 葉の葉

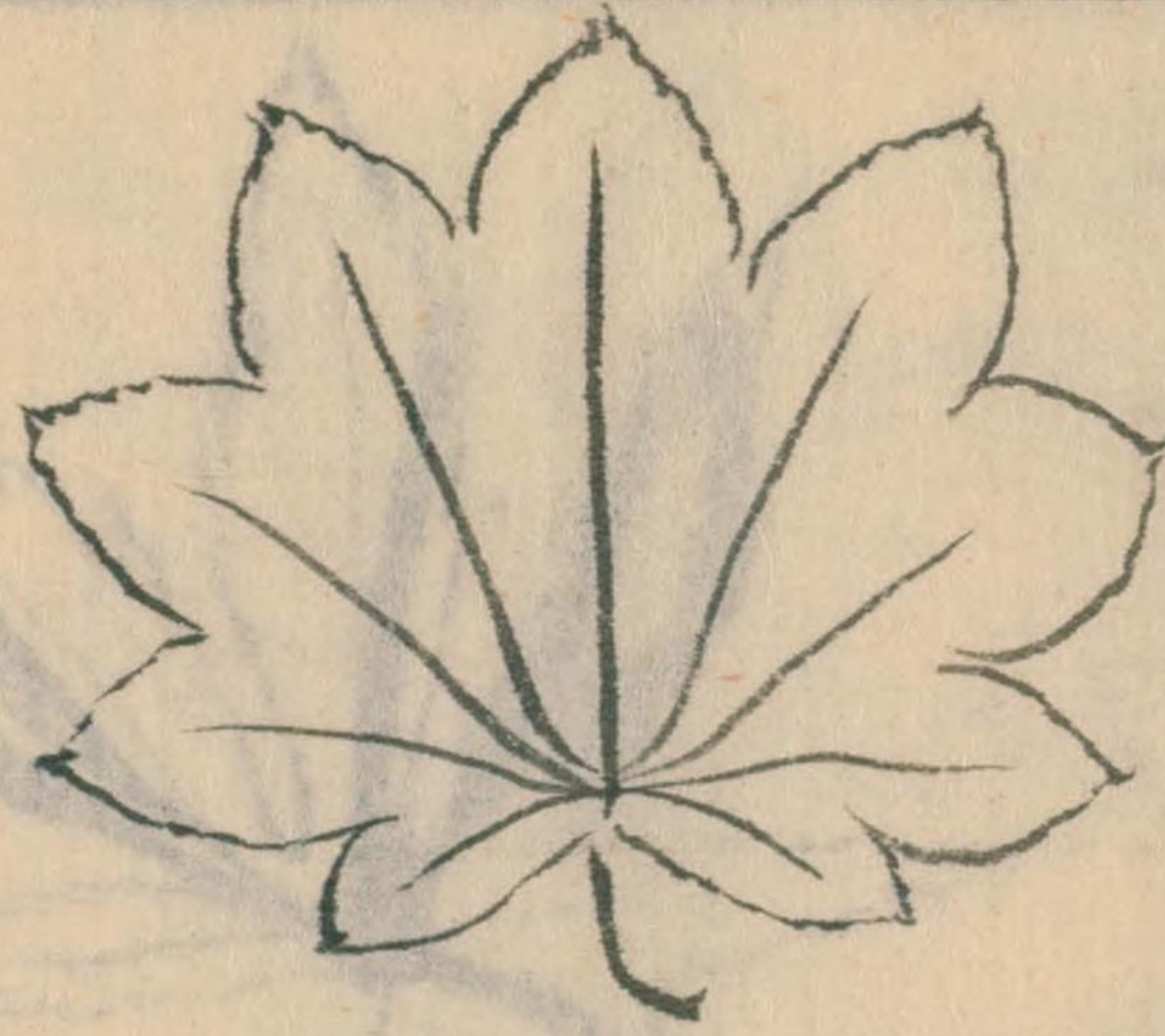
葉の葉を以て 葉の葉

葉の葉を以て 葉の葉

園久

葉の葉を以て 葉の葉を以て 葉の葉を以て

待雪



名月しらべもしらべ実生して
 雪散らさく小倉山と云物とて
 中野の夜多ふ心もさうさうしく
 色にうらみあはれとさうさうしく
 幸ふらうあはれとさうさうしく
 平気な心もさうさうしくとて
 有縁

夕陽



花の好むおぬれおぬれとて
 夕陽の光もさうさうしく
 此物二多うして紅葉きてとて
 秘蔵せりとてとてとてとて
 外の光もさうさうしく
 まさう葉もさうさうしく
 葉もさうさうしくとて
 花のもちもさうさうしく

通清

くまのこころ
 くらげのこころ
 くらげのこころ
 くらげのこころ



栂綿



葉形ゆかりの如くは縹色にして
花は白くはつばねの如くは
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして

花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして

呉服



花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして

雅喬

花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして
花の如くは縹色にして

楓



深き山に生るる楓の葉は
美陰

葉形大く色は
赤の真生より
古葉の葉は
赤く
葉は
赤く
葉は

扇子流



葉形扇形
赤の真生より
古葉の葉は
赤く
葉は
赤く
葉は

大井山
家



禁寺



石の縁のうらみはみよのこころ
はらへしつゝはらへしつゝはらへしつゝ

後成

秋の紅葉のなほくはらへしつゝ
山寺の紅葉のなほくはらへしつゝ
かゝる紅葉のなほくはらへしつゝ
紅葉のなほくはらへしつゝ
かゝる紅葉のなほくはらへしつゝ
紅葉のなほくはらへしつゝ
かゝる紅葉のなほくはらへしつゝ

十寸鏡



春の紅葉のなほくはらへしつゝ
かゝる紅葉のなほくはらへしつゝ
紅葉のなほくはらへしつゝ
かゝる紅葉のなほくはらへしつゝ
紅葉のなほくはらへしつゝ
かゝる紅葉のなほくはらへしつゝ
紅葉のなほくはらへしつゝ
かゝる紅葉のなほくはらへしつゝ

素紙

あはれくはらへしつゝはらへしつゝ
あはれくはらへしつゝはらへしつゝ
あはれくはらへしつゝはらへしつゝ
あはれくはらへしつゝはらへしつゝ



真向



下総の國美富山弘法寺の日蓮宗に古海之
 佛殿の庭に楓の古木ありて一木二極
 きありて一木二極一木二極一木二極
 とも知らず又案ずりて十数百年ありは
 一木二極之葉散山楓也蓋葉の小指物に
 葉中に柝子としてありて葉の外に柝子
 ありて一木二極一木二極一木二極一木二極
 有柝子の色に似てて一木二極一木二極一木二極
 ありて一木二極一木二極一木二極一木二極
 思ふ人等一木二極一木二極一木二極一木二極
 花をみたりて一木二極一木二極一木二極一木二極
 ありて一木二極一木二極一木二極一木二極



通村

七瀬川



葉形如也ありて一木二極一木二極一木二極
 透西の葉に似てて一木二極一木二極一木二極
 出葉より葉葉とて後より葉の
 葉中に柝子としてありて葉の外に柝子
 ありて一木二極一木二極一木二極一木二極
 ありて一木二極一木二極一木二極一木二極
 ありて一木二極一木二極一木二極一木二極

通村

花の葉に似てて一木二極一木二極一木二極
 ありて一木二極一木二極一木二極一木二極
 ありて一木二極一木二極一木二極一木二極

金桐



葉は大きく切込みの深きものあり
葉の裏は白く裏の肉は厚く
葉の縁は鋸歯状の鋭きものあり
葉の裏は白く裏の肉は厚く
葉の縁は鋸歯状の鋭きものあり
葉の裏は白く裏の肉は厚く
葉の縁は鋸歯状の鋭きものあり
葉の裏は白く裏の肉は厚く
葉の縁は鋸歯状の鋭きものあり
葉の裏は白く裏の肉は厚く
葉の縁は鋸歯状の鋭きものあり

資慶

松葉



葉形は細く切込みの浅きものあり
葉の縁は鋸歯状の鋭きものあり
葉の裏は白く裏の肉は厚く
葉の縁は鋸歯状の鋭きものあり
葉の裏は白く裏の肉は厚く
葉の縁は鋸歯状の鋭きものあり
葉の裏は白く裏の肉は厚く
葉の縁は鋸歯状の鋭きものあり
葉の裏は白く裏の肉は厚く
葉の縁は鋸歯状の鋭きものあり
葉の裏は白く裏の肉は厚く
葉の縁は鋸歯状の鋭きものあり

實岑

軒信



葉大なる如くして葉の形もあはれ

もたつてはしるすべし

葉の形もあはれ

もたつてはしるすべし

葉の形もあはれ

もたつてはしるすべし

あつてはしるすべし

葉の形もあはれ

もたつてはしるすべし

あつてはしるすべし

空の雲

あつてはしるすべし

根の穂乃を葉と申すとて今春は

春はかきかへる葉の色あつて秋は

色と葉とのあつては葉の形もあ

切込すが葉の長短の形もあ

おれはあつてはしるすべし

あつてはしるすべし

あつてはしるすべし



文正

四ノ一



小倉山



葉が切ぬ多く十二の月

あつとそ十二ひととそ

とつとそ好まふあ

あつとそれはうと

らだたお葉の

あつとそれはうと

あつとそれはうと

あつとそれはうと

あつとそれはうと

あつとそれはうと

あつとそれはうと

あつとそれはうと

高雄



高倉院
所方

葉の表の紅葉ありしと山麓

秋の色と賞せりりの地ハ紅葉

の葉よりしてりりふながあ

綿とらうとせや線ハ山麓の

葉のやよのこ墨ハ紅葉と

綿城居とながあせしを

め抄は紅葉のさあへてあ

まはうとせはれはれ後と

うとそれは海の山のお葉と

あつとそれはうと

史記

四ノ二



新刊

八深



物言の紅葉集のどく花あし海
 八深の紅葉と云うとく如と名を
 又春に秋と云ふは又秋の紅葉
 りあや八深と名付り八深集
 名を紅葉とて秋の紅葉に
 いろくあやがあやと名を
 いふか紅葉花よりあやと
 名をあやと名付り
 あやと名

後〜紅葉のそり紅葉と

紅葉のそり紅葉と

三山



か葉あつてく切込紅葉は紅葉
 上ひよのどくあやと名を紅葉と
 の紅葉のそり紅葉と名付り
 か葉にわかれ紅葉と名付り
 は紅葉の山より紅葉と名付り
 紅葉と名付り紅葉と名付り
 うる紅葉と名付り紅葉と名付り
 この山何処とも紅葉と名付り
 紅葉と名付り紅葉と名付り
 紅葉と名付り紅葉と名付り

次山風

田ノ三



新刊

名月

一名のわ楓

古今

秋の月



落葉の

おはな

葉形切取文

十二部とのどく

はなをまきつる人

御あはし葉あまう付はありもの下をなを象もさる
 ぬといふ心めや板家根と号とよきんてえ
 秋ハ黄も心なまよらん小深う葉あ飛んきけ
 まは紅葉の葉月乃りのりつらん物於すれ
 るんとも

秋山図

四ノ五



奇作

白萩



葉形切込わうて本毛
まづれ出葉の秋葉を
うまひふたのやみく
うまひふたのやみく
うまひふたのやみく
うまひふたのやみく
うまひふたのやみく
うまひふたのやみく
うまひふたのやみく
うまひふたのやみく

白萩の葉を

秋乃本れ葉とらむよたむん

奥初獨搗



葉形切込わうて本毛
むうては種奥初よりわう
う一号と本毛たよまづれ
これがまづれといふう又
見ざれて深き方といふか
秋も冬も

河原丸太臣

えちのれまのふりちり
きよきよふりちり
深き種ならむよ

次山

四ノ七



あざみ



あざみの葉は秋の風を
さするに似たりと云ふ
ちひさしき葉に
しらたよの魚なり
寒有葉と文集よき
お葉のちちも久し
しつらさぞきし
とくもらん
あざみは秋の風を
さするに似たりと云ふ

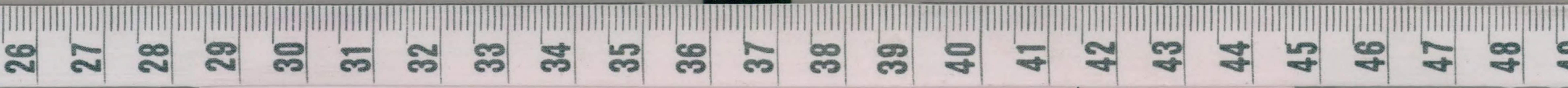
あざみ



あざみの葉は秋の風を
さするに似たりと云ふ
ちひさしき葉に
しらたよの魚なり
寒有葉と文集よき
お葉のちちも久し
しつらさぞきし
とくもらん
あざみは秋の風を
さするに似たりと云ふ

山川

四ノ上



あし
山



葉形は丹波くさくさ

あまのこころのこころ

あまのこころのこころ

あまのこころ

徳田法師

あし吹えびり

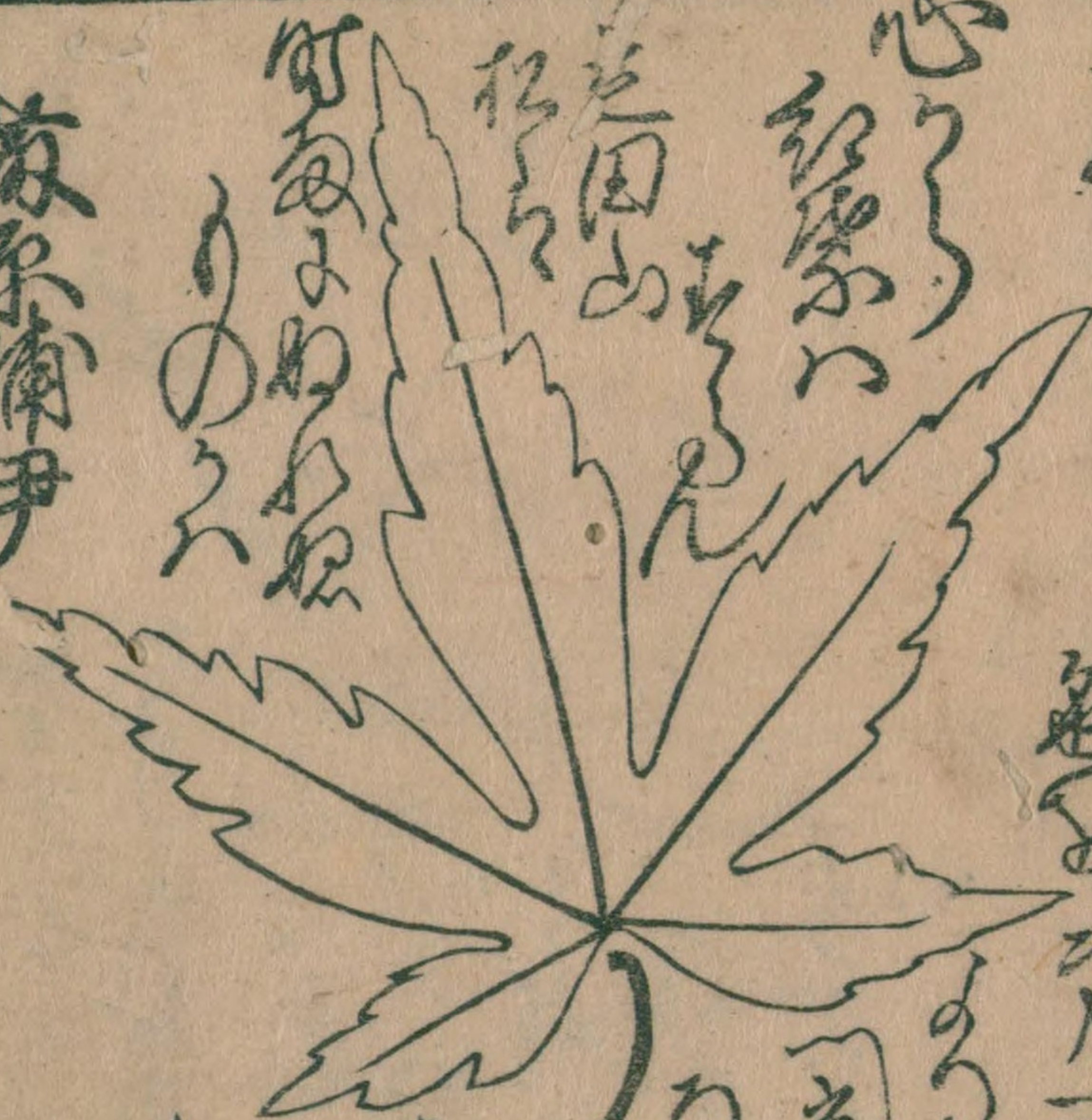
あまの

紅葉あまの

立田入川

錦あまの

あまの
立田



葉形つこの心形とあまの

あまのこころのこころ

あまのこころのこころ

あまのこころのこころ

あまのこころのこころ

あまのこころのこころ

あまのこころのこころ

あまのこころのこころ

あまのこころのこころ

あまのこころのこころ

あまのこころ

あまのこころのこころ

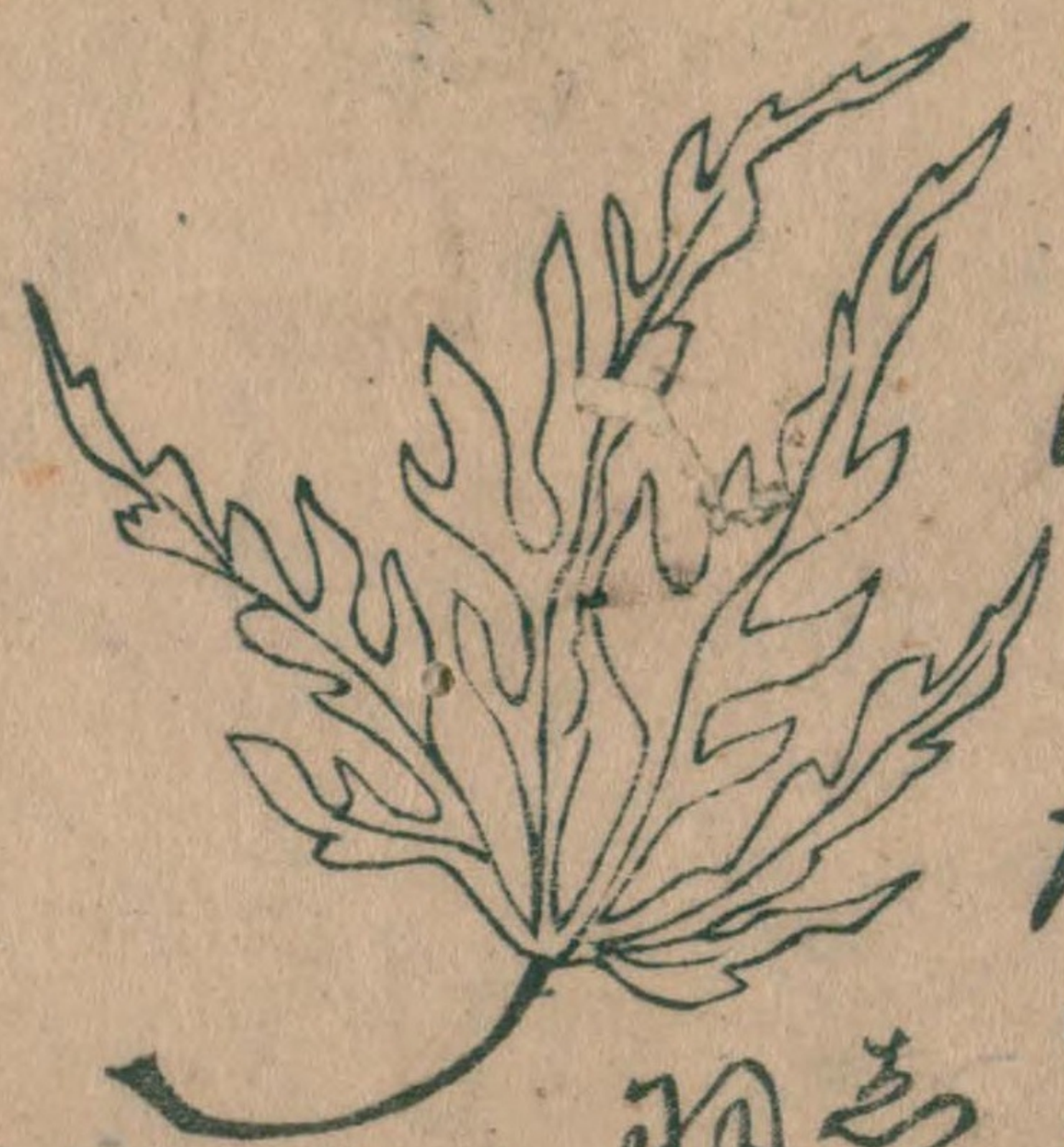
あまのこころのこころ

あまのこころ

あまのこころ

音小本

侘人わびひと



繁秋のそとまぎくされくま
たつよふすあうくさりわり
あつれらる葉形なきれん
羽の似るそとそ風かぜ風かぜ
うぶ秋のそとそお葉も
あゝ年よふらうらくと
とすてとくちらう

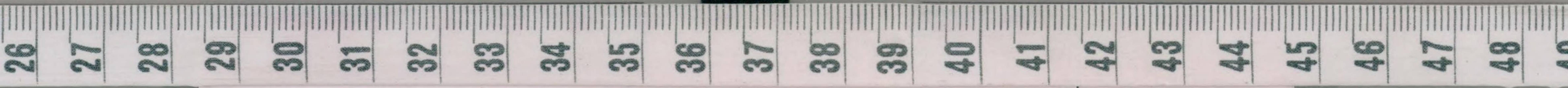
僧正そうじょう遍眼へんがん

よひのたれもそとまきうあのおあのあわわ
たのひらけのそと繁らうらうらう

行風ぎやうふう



繁秋のそとまぎくされくま
あつれらる葉形なきれん
羽の似るそとそ風かぜ風かぜ
うぶ秋のそとそお葉も
あゝ年よふらうらくと
とすてとくちらう
色うしそまうら
つひよ秋葉
お葉のそとまぎくされくま
とく結のた
さあくよ保つ
友とも別わか
心こころのそとまぎくされくま
お葉のそとまぎくされくま



村書



葉形切也物くもたど
色ふらふらふれよりの
秋もくんとたよるえ
色又ふらふれよりの
ゆるりして保る
覚ゆる所
村書のあられて
保るおぼえはなす
もつるもるるる

唐錦



葉形山祖のこくもく
秋のおぼえはなす
色ふらふらふれよりの
秋もくんとたよるえ
色又ふらふれよりの
ゆるりして保る
覚ゆる所
唐錦のあられて
保るおぼえはなす
もつるもるるる

きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも

大ぬきまゝ雑



遠近人

きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも
きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも
きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも
きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも

白くま



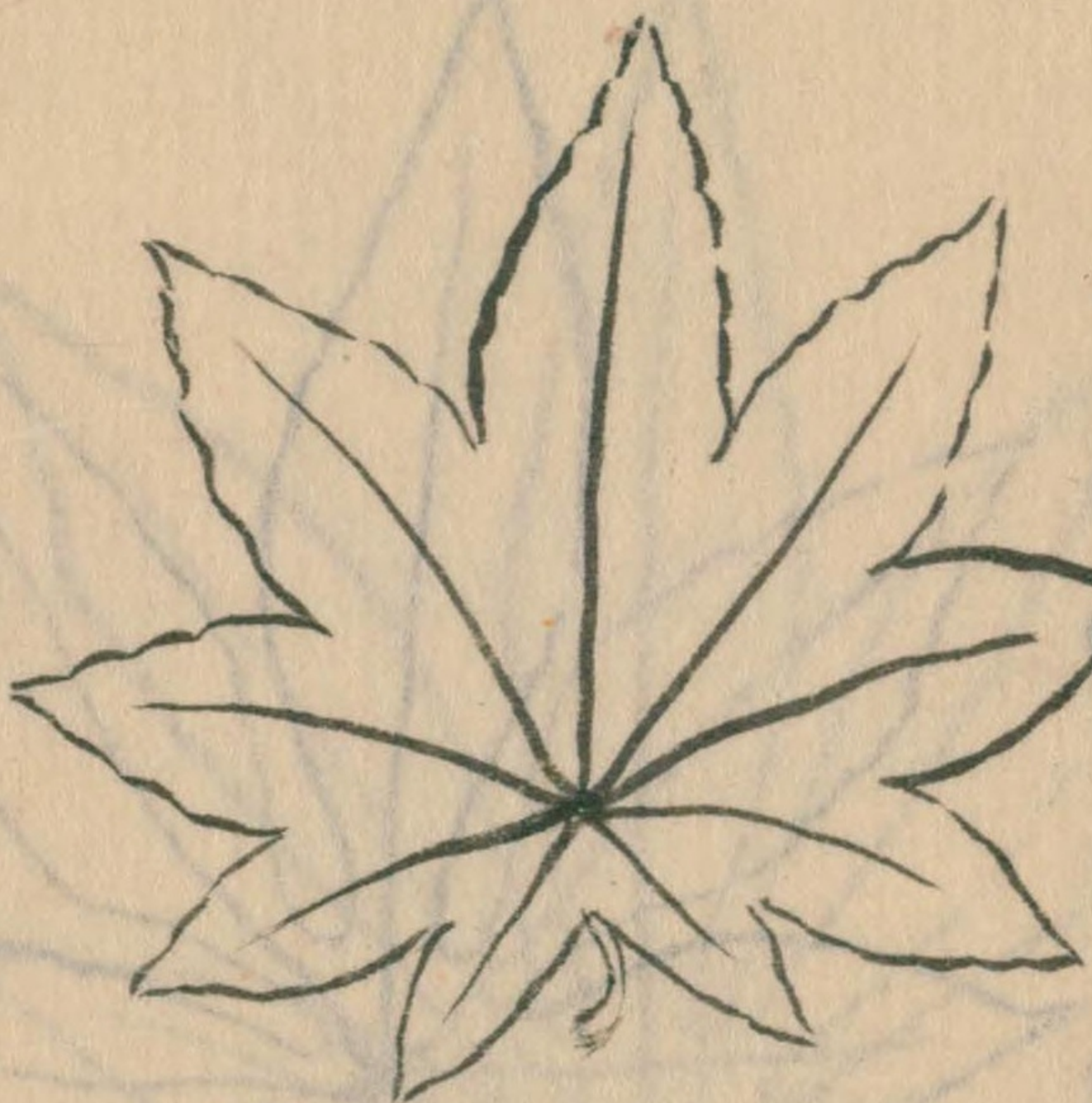
白くま

きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも
きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも
きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも
きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも

きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも
きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも
きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも
きぬちのたけの人の袖のりらも
うしろのたけの人の袖のりらも



小夜時雨



小倉山にふくしの葉のまはりに
あけぬる雨の音は
きこゆる
きこゆる
きこゆる
きこゆる
きこゆる

夜道前内大信

けしきよ
あけぬる雨の音は
きこゆる

新



あけぬる雨の音は
きこゆる
きこゆる
きこゆる
きこゆる
きこゆる
きこゆる

尾大信

あけぬる雨の音は
きこゆる
きこゆる
きこゆる
きこゆる
きこゆる
きこゆる



浦瀉



葉形各地の稀に多し似てらし

らふ心ちりら 出葉くまふ井互

音くまら 枝又の葉はまらふ

子しりら のりらふまら

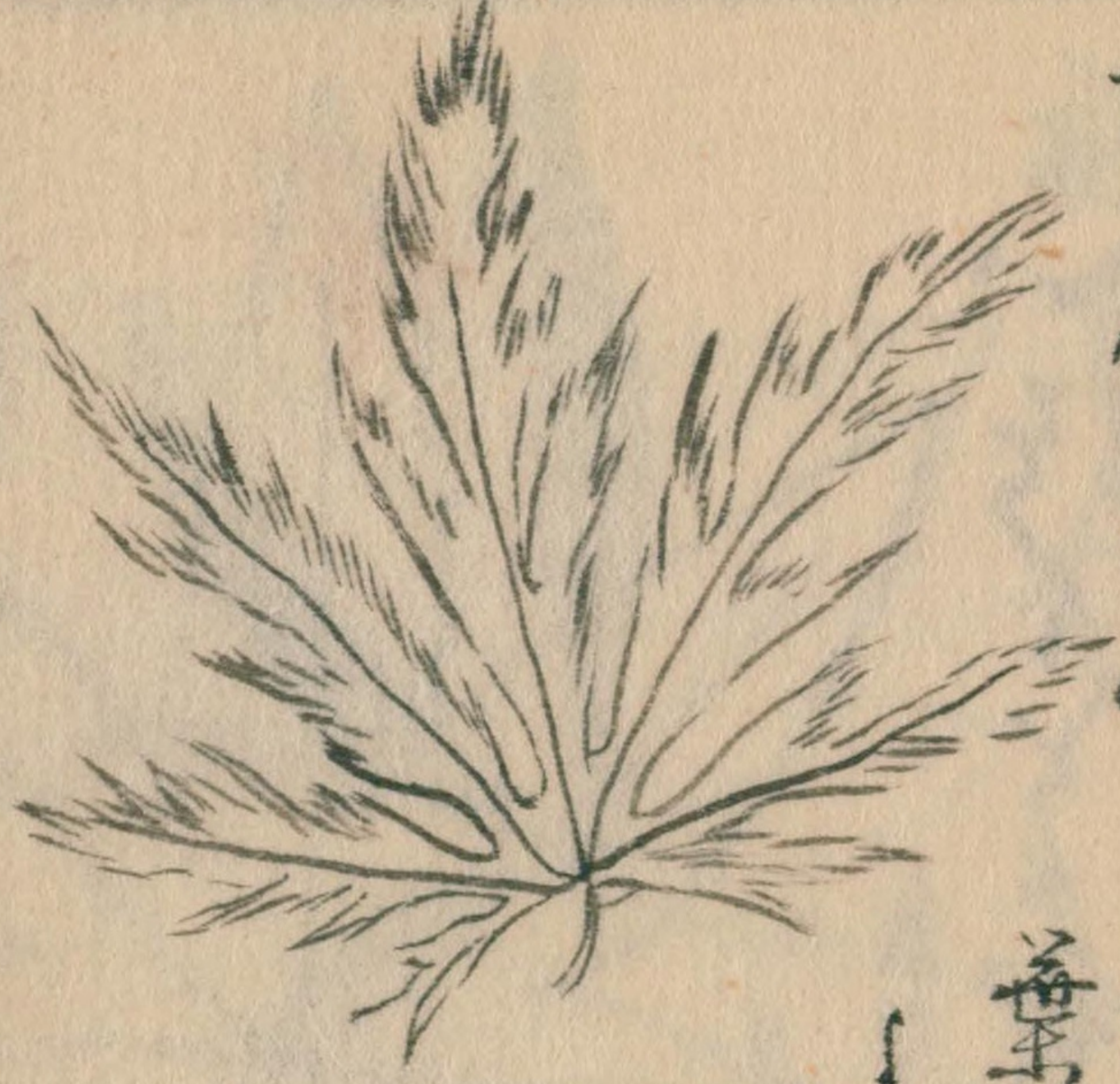
馬家

まらふら 馬家

まらふら ぬらまらふ井互

子しりら のりらふまら

芒乃忍



葉切也いあらすすしし

葉しりら 葉はまらふ

らてすの 枝葉は形ふまら

櫻格柳しりら 枝はまら

まらふら 葉はまらふ

まらふら 葉はまらふ

定家

定家

定家

古郷



葉形も一葉あり
のこ色してやせりす
ましくわつて紅の葉
よやくある事一又
新緑の山

兼中物云実徑

いほくとも錢
海きらこも
紅のゆらり

初



初
つらつら
白雲の山くま
又
山

近傳前園白石大匠

花あつは
子一母は



夕雲



葉形大く、
あしはゆるやかな
うねり、
たけはゆるやかな
うねり、
たけはゆるやかな
うねり、

二品法覚助

夕雲の葉

葉の形

葉の形

葉の形

紋書



葉形く、
あしはゆるやかな
うねり、
たけはゆるやかな
うねり、
たけはゆるやかな
うねり、

後光

山姥
あしはゆるやかな
うねり、
たけはゆるやかな
うねり、



夕時雨



山雲の葉の色にうらみ
あつたのうらみくもえ
後山にゆきわたる
夕時雨の夜に掃きさらす
秋の夜更けの静けさ
かきこえてくる
夕時雨の日の影をのぼる
松乃山にうらみ

公雄

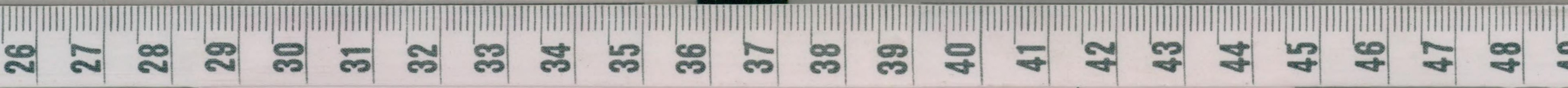
紫金山



葉形こそさくらに似て
色はあつたのうらみくもえ
山雲の葉の色にうらみ
あつたのうらみくもえ
後山にゆきわたる
夕時雨の夜に掃きさらす
秋の夜更けの静けさ
かきこえてくる

為家

夕時雨の夜に掃きさらす
秋の夜更けの静けさ
かきこえてくる



水引草



葉形もあつちすまろく
あり事せらりて
柄もよれてあひあつち
花のあつちあつち
いへりて
てを水と思ひ
その珍葉に及び

森下院

水引草の下の草は
花のあつちあつち

紅葉志



葉形もあつちすまろく
あり事せらりて
柄もよれてあひあつち
花のあつちあつち
いへりて
てを水と思ひ
その珍葉に及び

前大徳正慈園

水引草の下の草は
花のあつちあつち



紅葉集



葉秋くもねくも
青くもねくも
事もねくも
いもねくも
為ねくも
事もねくも

家隆相伝

紅葉集
下巻

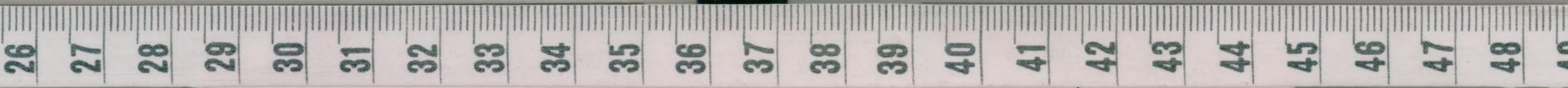
紅葉集



葉秋くもねくも
青くもねくも
事もねくも
いもねくも
為ねくも
事もねくも

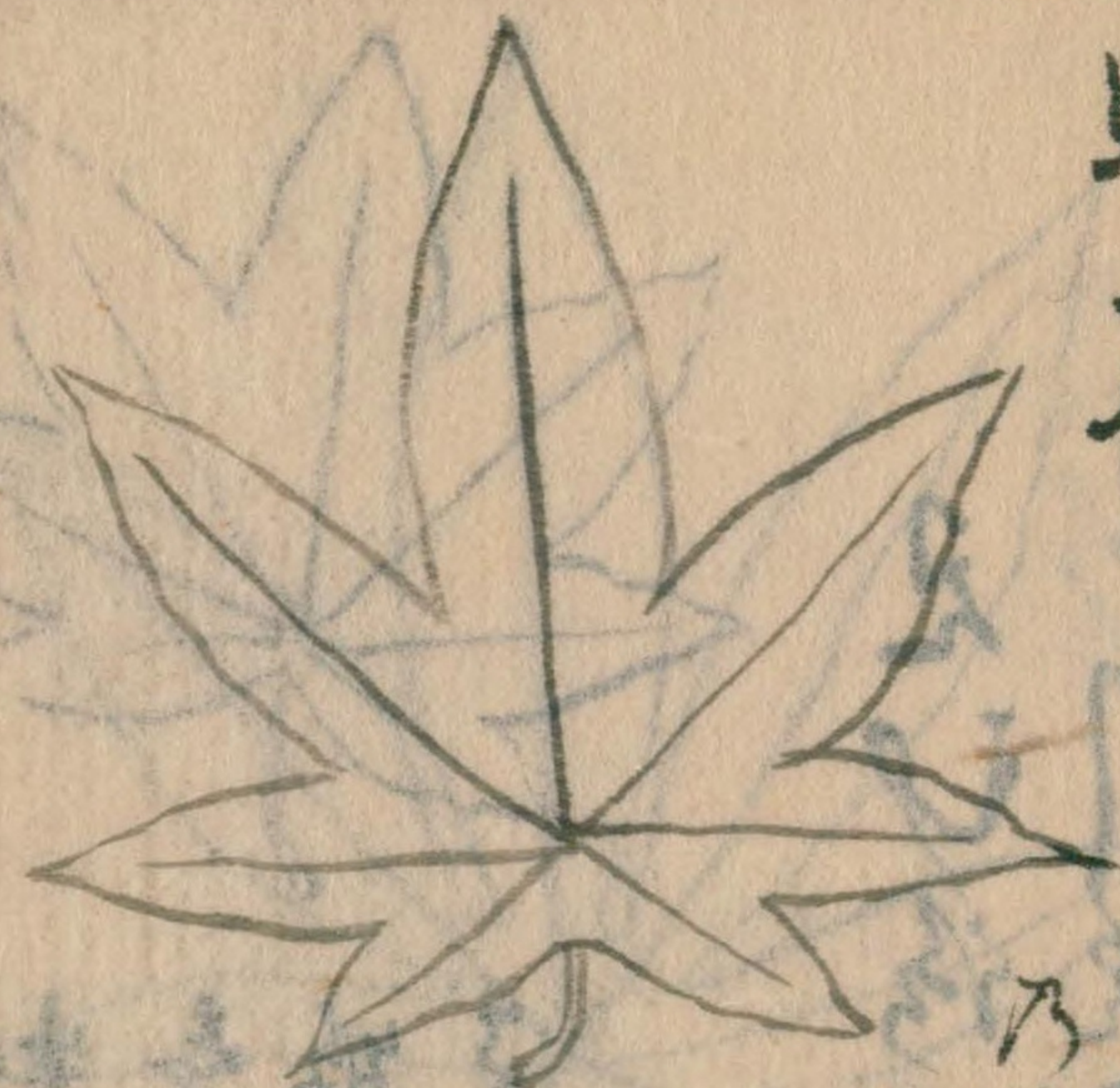
為忠卿

紅葉集
下巻



此の葉は、
山に生ずる
ものなり。

古今
草木



此の葉は、
山に生ずる
ものなり。
其の葉は、
山に生ずる
ものなり。
其の葉は、
山に生ずる
ものなり。

駒
野

此の葉は、
山に生ずる
ものなり。

古今
草木



此の葉は、
山に生ずる
ものなり。
其の葉は、
山に生ずる
ものなり。
其の葉は、
山に生ずる
ものなり。

千
里

後花園



華散らばるる色くらりて
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく

蘇 作 家

己じ後山如葉も

しきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく

七條院



葉のしきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく

七條院大納言

もさきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく
さきさきとくもさきさきとく

冬不別



葉散るるも美のうれ多く葉
の散るにゆくも美しうららかに
夏はふたはくも稀のこころ
きふ中へもあはれもあひ乃
ゆきしれり世の世は終る
事なり

あつてはらん
もらやん

深重

種風



紅葉の道
上り下り
あはれもあひ
ゆきしれり

あ

葉散大ましく強よ
ららわけて美形
あはれもあひ
幸盤のあはれ
秋の紅葉もあ
あはれもあひ

程吉史公繼

海人村乃
山形



白ゆか



葉形は如月より少し大きき
あり葉縁は鋸歯して主として
しりぞきたるものありて
白葉といふ

葉はしほ乃魚をゆくと
しりぞきたるものありて

去由門院

行く山よりしりぞきたるものありて
葉形は如月より少し大きき

裁深



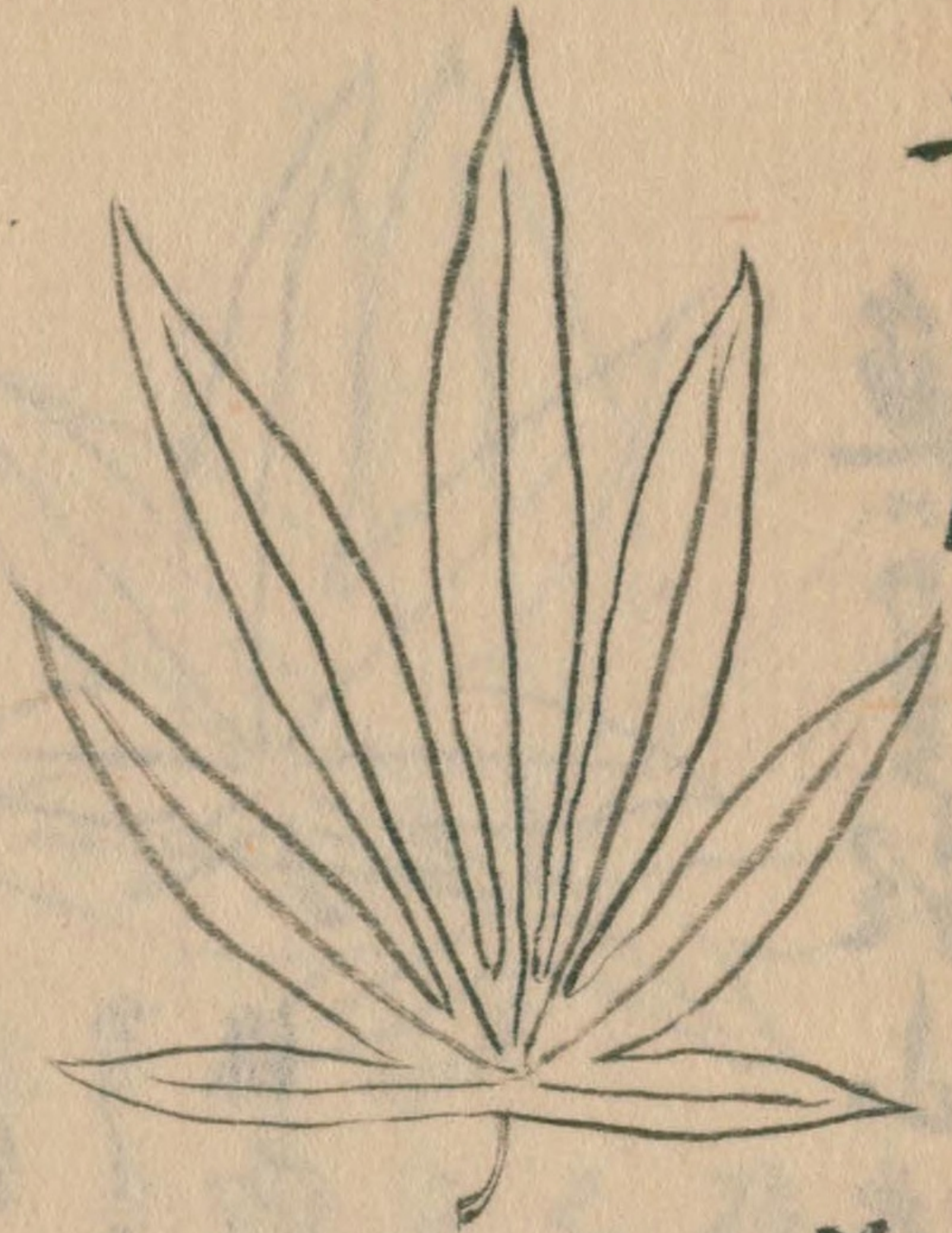
八しほりしりぞきたるものありて
葉形は如月より少し大きき
葉縁は鋸歯して主として
しりぞきたるものありて
白葉といふ

高野

葉形は如月より少し大きき
あり葉縁は鋸歯して主として
しりぞきたるものありて
白葉といふ



七夕



葉形神ありく切はしうく
 穂し七つよ切きう
 きらき大あきう
 しもそし七きうも
 八九きうあき事も
 七きう紫枝あき
 安和門院四葉

白深の糸



葉形ちんちん切きうき
 志けく甘て志けく
 枝やそく志けく
 わりあきしん
 紅あきとあきく
 深あき
 隆祐

麻毛織綿



葉形くちかきく利
志中きくき色かたれこ
麻毛くくくくく
葉の根くき掃い路と
めりく経乃紅葉ある
てんかき

大納言基家

の夜くくくく
とくくくくく
をのくくくくく

皮みちれぬ身家元縁のくくくは十二部く
世じくかきくくく其教十種くくく後美中乃
めりく出くくそのおわく子忠教のあくくく
奇仙桃くくく世くく内はくくくあきく
かろく程年くくく愛葉あき其上所用少くく
唐去くくく流王東くくくくく諸國
くくくくくくくくくくくくくく
百種小海くくく林葉くくく古くくくく
百人一首くくくくくくくくくく



日く矣天かふらふ葉とんる内らつ事とて
心しりのく為葉とて接ぬ

美生百種の交葉ふれ、似る葉散りてゆれ
くも交葉吟味して意をよきく遊く葉のよ
まののよきまよふく、いふまに昔葉のよま
音深緑まよる葉ま葉うらまをまよる如く
為の清紅まよ丹如ままま如葉まよる葉
濃むくまま如葉ままま出まのままま
徐くく畫工も筆ままま如ままま又移乃
如まま心まままままままままま

のまま如ままま 諸まま如まま通用まま
杯うまらまの所まま如ままの種まま如まま
まま如まま如まま如まま如まま如

東武江北深井

美木州花肆

保森深まま

百楓集者

楓葉斬段在樹久

元文丁巳時雨紅葉良日



再跋

古く持持えたる歌仙桐乃小冊にりまの金
書紙者中氏しそ思きよ一歌仙二歌仙
〜又抄紙八種と追加〜各如新と
添くきれと百人一首知葉集と歸
か心腹〜丁敷に記かへ来り籠下廣わ
洋々吾主と書と忌りの辭多く葉書

其他紙碑記と白く抄りて藏き守るんと
植物家と云ふとあり〜を装〜
知葉乃夕葉紙葉歌の意と也〜
元文丁巳年〜百五十年〜新筆此
今よあつて二と云ふ〜全部〜
ねま二彼の古巻も終りて明治二十
年〜新筆の白巻も終りて明治二十



67
253

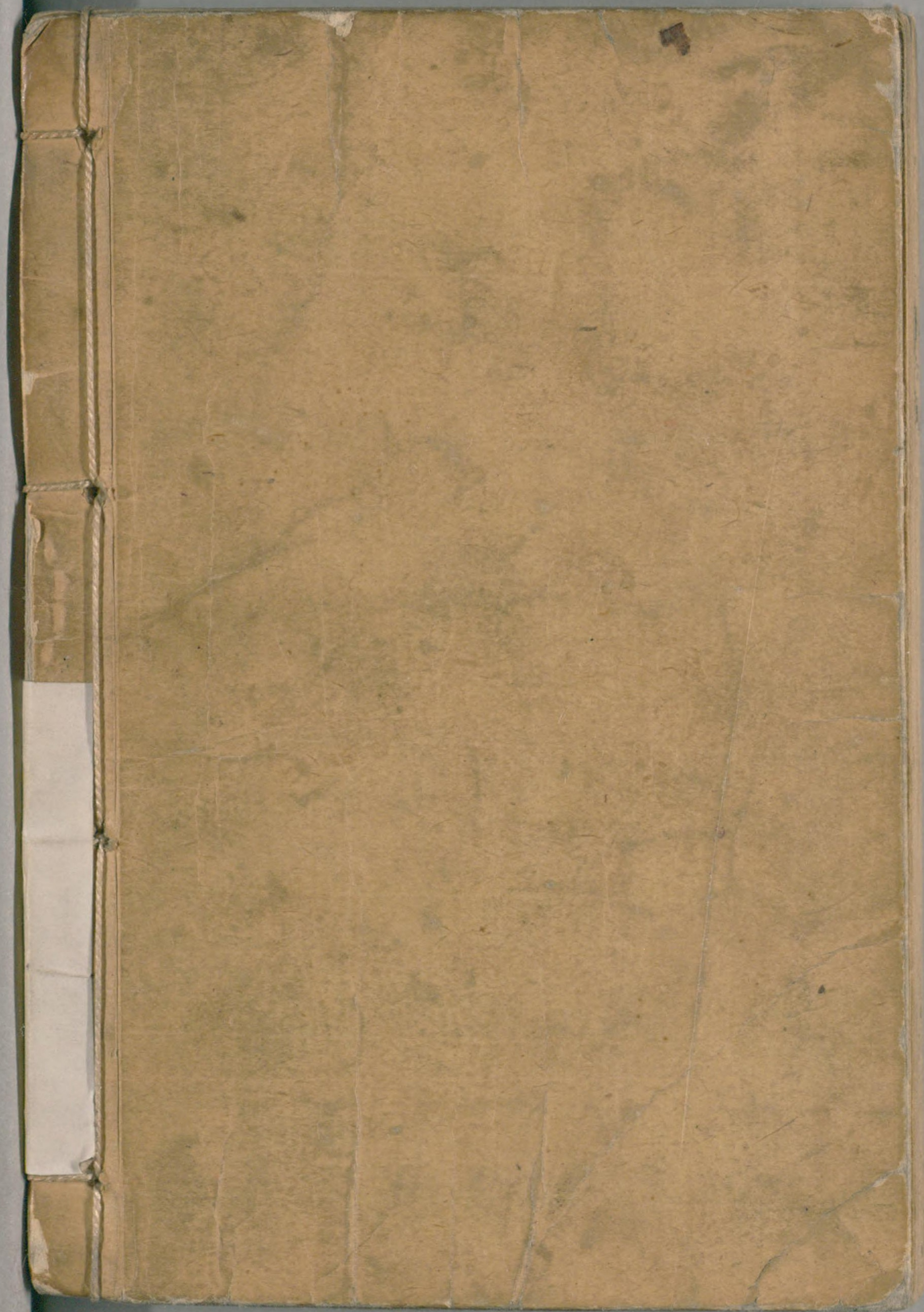


白紅葉

子の孫彦村

裁行也





国立国会図書館

タイトル『紅葉集』 請求記号 W373-N29

ガラス使用